

日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）

追加型投信／海外／債券／インデックス型

交付運用報告書

第127期（決算日2016年12月16日） 第128期（決算日2017年1月16日） 第129期（決算日2017年2月16日）
第130期（決算日2017年3月16日） 第131期（決算日2017年4月17日） 第132期（決算日2017年5月16日）

作成対象期間（2016年11月17日～2017年5月16日）

第132期末（2017年5月16日）	
基準価額	8,665円
純資産総額	66,206百万円
第127期～第132期	
騰落率	6.5%
分配金（税込み）合計	150円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）」は、2017年5月16日に第132期の決算を行ないました。

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数と新興国債券指数を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

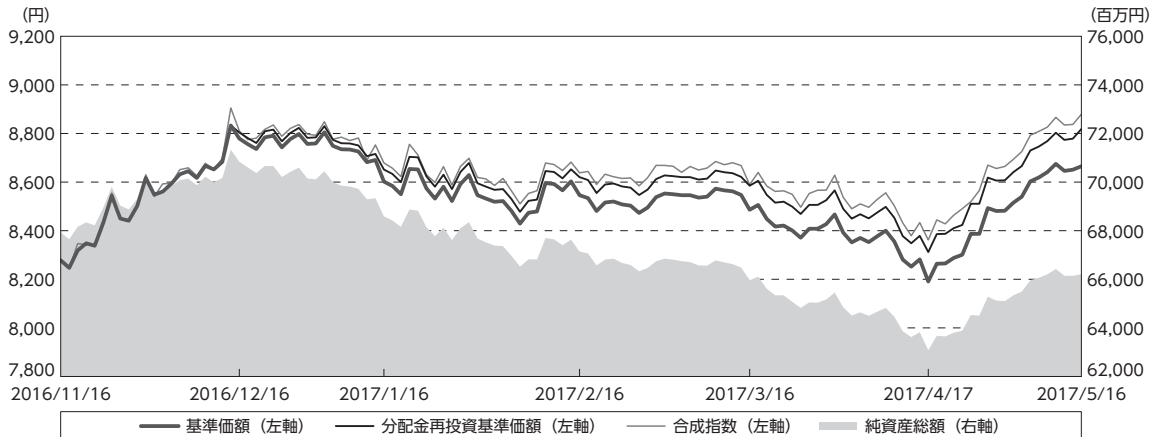
コールセンター 電話番号：0120-86-2514
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2016年11月17日～2017年5月16日)



第127期首：8,278円

第132期末：8,665円 (既払分配金 (税込み)：150円)

騰落率：6.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、作成期首 (2016年11月16日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数「シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)」80%と新興国債券指数「J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス (円ヘッジなし・円ベース)」20%を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・米国政権の政策運営に対する不透明感が強まったこと。
- ・フランス大統領選挙を控え政治的不透明感が高まったこと。
- ・円安／アメリカドル高、円安／ユーロ高、円安／イギリスポンド高が進行したこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・石油輸出国機構（OPEC）による原油減産の実施合意を受けて原油価格の上昇期待が高まったこと。
- ・発表された米国連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨から米国の追加利上げは緩やかに進むとの見方が強まったこと。
- ・米国において、金利の上昇を招く可能性がある税制改革の実現性に不透明感が強まり、長期金利が低下したこと（2017年3月中旬～期間末）。

<値下がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・米国において2016年内の追加利上げ観測が強まったことおよび12月と2017年3月に利上げが実施されたこと。
- ・米国次期政権による積極的な景気刺激策が財政赤字の拡大とインフレ期待につながるとの見方が強まったこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・米国連邦準備制度理事会（FRB）による追加利上げや金融引締めペースの加速が見込まれたこと（期間の初め～2016年12月中旬）。
- ・原油価格が下落基調となったこと（2017年2月下旬～3月上旬）。
- ・米国の長期金利が上昇したこと（2017年2月下旬～3月上旬）。

1万口当たりの費用明細

(2016年11月17日～2017年5月16日)

項 目	第127期～第132期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 46	% 0.536	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(21)	(0.241)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(23)	(0.268)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(2)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.016	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(0)	(0.003)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	47	0.552	
作成期間の平均基準価額は、8,541円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

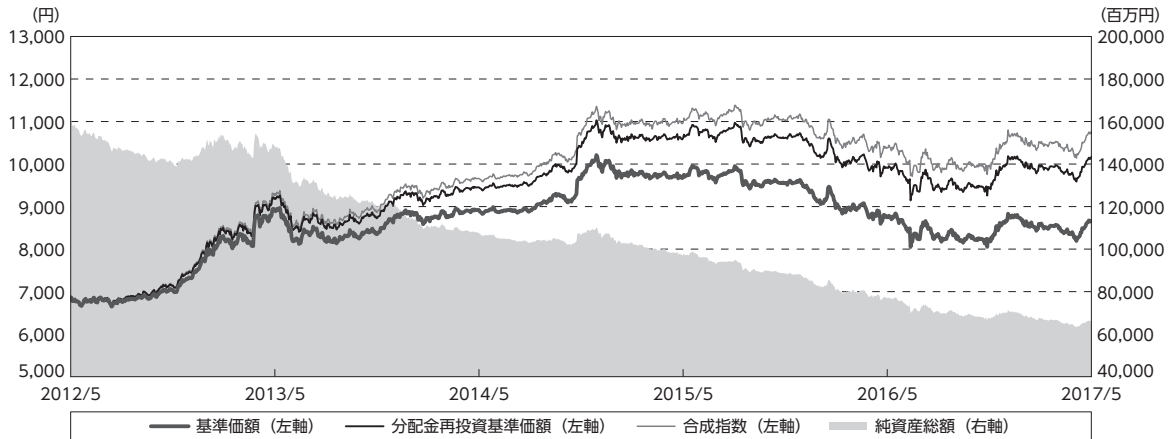
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年5月16日～2017年5月16日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、2012年5月16日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年5月16日 決算日	2013年5月16日 決算日	2014年5月16日 決算日	2015年5月18日 決算日	2016年5月16日 決算日	2017年5月16日 決算日
基準価額 (円)	6,870	8,888	8,879	9,749	8,749	8,665
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	240	245	300	300	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	33.6	2.8	13.3	△ 7.3	2.6
合成指数騰落率 (%)	—	34.8	4.1	14.8	△ 6.4	3.8
純資産総額 (百万円)	160,561	147,572	107,049	97,748	77,014	66,206

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

投資環境

(2016年11月17日～2017年5月16日)

(先進国債券市況)

先進国の債券市場では、米国、ドイツなど各国の10年国債利回りは、期間の初めと比べて総じて上昇（債券価格は下落）しました。

期間の初めから2016年12月前半にかけては、米国新政権による積極的な景気刺激策が財政赤字の拡大とインフレ期待につながるとの見方が強まったことや、12月のFOMCにおける利上げの決定および2017年政策金利予測の上方修正などが利回りの上昇要因となった一方、欧州中央銀行（ECB）が量的緩和策における資産購入基準を緩和したことなどが欧州債券利回りの低下（債券価格は上昇）要因となり、投資対象国の10年国債利回りはまちまちの動きとなりました。12月後半から2017年3月前半にかけては、米国新政権発足後に政策運営への不透明感が強まったことが利回りの低下要因となったものの、欧州域内のインフレ圧力が増しつつある兆候が見られたことや、米国における3月利上げ観測が高まったことなどをを受けて、投資対象国の10年国債利回りは総じて上昇しました。3月後半から期間末にかけては、フランス大統領選挙の結果を受けて欧州連合（EU）の混乱が回避されるとの期待が高まったことなどから、投資家のリスク回避姿勢が弱まった一方で、米国の利上げは決定されたものの今後の利上げペースの加速は示唆されなかったことや、シリアや北朝鮮の情勢緊迫化を背景とする安全資産への逃避需要などを背景に、投資対象国の10年国債利回りは総じて低下しました。

(新興国債券市況)

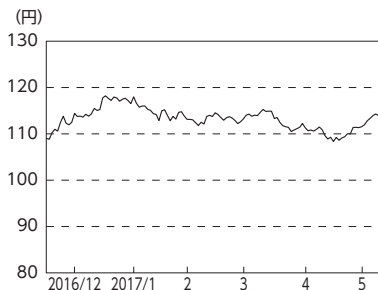
新興国債券指数は、期間の初めと比べて、上昇しました。

期間の初めから2016年12月中旬にかけては、OPECによる原油減産の実施合意を受けて原油価格の上昇期待が高まったことなどは新興国債券指数の支援材料となったものの、FRBによる追加利上げや金融引締めペースの加速見込みなどが重しとなり、新興国債券指数は、もみ合いの展開となりました。12月下旬から2017年2月中旬にかけては、発表されたFOMC議事要旨から米国の追加利上げが緩やかに進むとの見方が強まったことや、一部の新興国において格付け見通しが引き上げられたことなどが好感され、新興国債券指数は上昇しました。2月下旬から3月上旬にかけては、原油価格が下落基調となったことや、米国の長期金利が上昇したことなどをを受けて、新興国債券指数は下落しました。3月中旬から期間末にかけては、米国において、金利の上昇を招く可能性がある税制改革の実現性に不透明感が強まり長期金利が低下したことや、それを背景に新興国からの投資資金の流出懸念が緩和したことなどが支援材料となり、新興国債券指数は上昇しました。

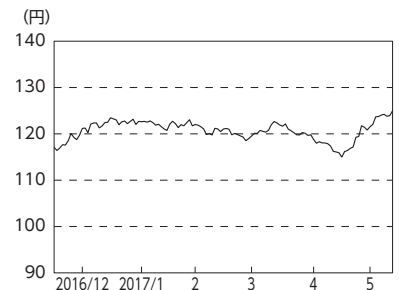
(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2016年11月17日～2017年5月16日)

(当ファンド)

当ファンドは、信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資し、運用を行ないました。

(海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド)

債券のリスクコントロールモデルによりベンチマークが採用している国の債券の中からポートフォリオを構築し、運用を行ないました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

(海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド)

債券のリスクコントロールモデルを使用して、ベンチマーク採用国の銘柄でポートフォリオを構築しました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、毎月ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年11月17日～2017年5月16日)

期間中における基準価額は、6.5%（分配金再投資ベース）の値上がりとなり、ベンチマークである「合成指数」の上昇率7.3%を0.7%下回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

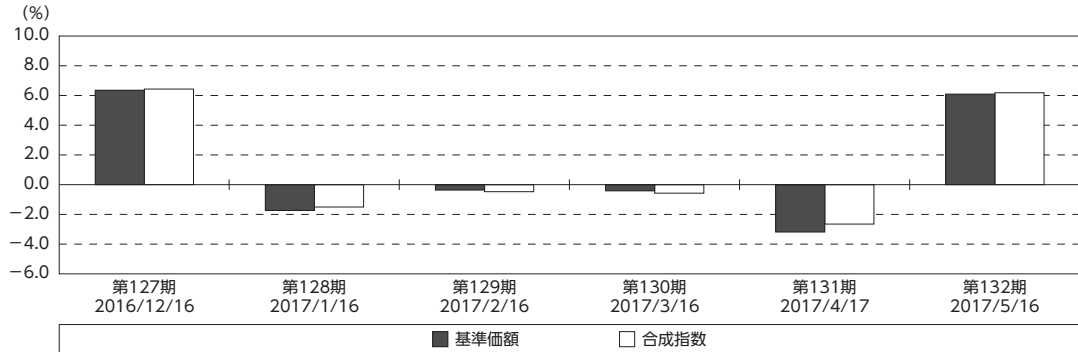
<プラス要因>

- ・銘柄選択による効果。

<マイナス要因>

- ・債券および為替取引に関する諸費用。
- ・外国口座の管理費用。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2016年11月17日～2017年5月16日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期	第132期
	2016年11月17日 ～2016年12月16日	2016年12月17日 ～2017年1月16日	2017年1月17日 ～2017年2月16日	2017年2月17日 ～2017年3月16日	2017年3月17日 ～2017年4月17日	2017年4月18日 ～2017年5月16日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率)	0.284%	0.290%	0.292%	0.294%	0.304%	0.288%
当期の収益	24	17	16	15	16	22
当期の収益以外	0	7	8	9	8	2
翌期繰越分配対象額	458	451	443	434	426	424

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、原則として信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配合で合成した指数に連動する投資成果をめざします。

（海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ポートフォリオの金利感応度などの属性をベンチマークである「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と同程度に保ち、連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ベンチマークである「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」との連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2016年11月17日から2017年5月16日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

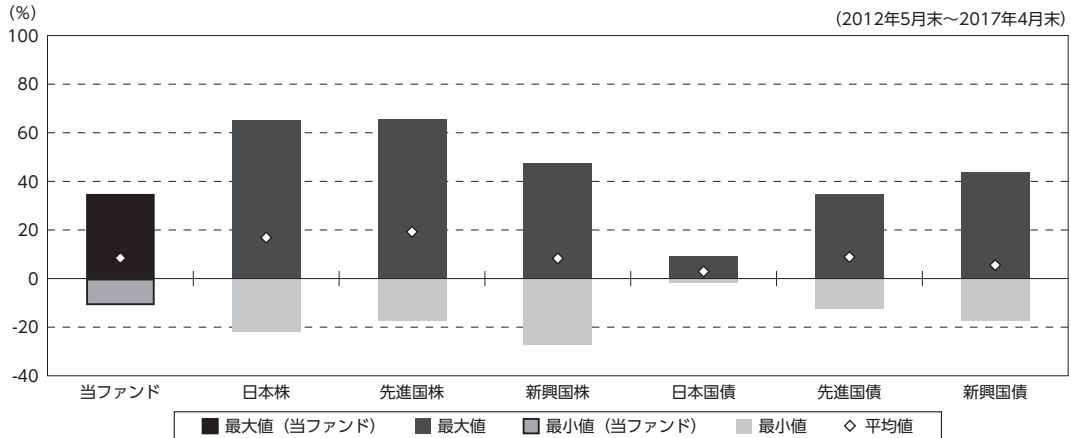
当ファンドについて、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2に定める信用リスクを適正に管理する方法として、一般社団法人投資信託協会規則に従って委託会社が合理的な方法を定めるべく、2017年2月17日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。（付表）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券／インデックス型	
信託期間	2006年6月12日から原則無期限です。	
運用方針	主として「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配分で合成した指数に連動する投資成果をめざします。	
主要投資対象	日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）	「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	内外の公社債を主要投資対象とします。
	海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	新興国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	先進国債券の運用は、主として日本を除く先進国の債券に投資し、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。新興国債券の運用は、主として新興国の債券に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。	
分配方針	第1計算期から第2計算期までは収益分配を行ないません。第3計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。ただし、基準価額水準などを勘案し、上記安定分配相当額のほか、委託者が決定する額を付加して分配を行なう場合があります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	34.8	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△10.9	△22.0	△17.5	△27.4	△1.8	△12.3	△17.4
平均値	8.4	16.9	19.2	8.3	2.9	8.9	5.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年5月から2017年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのベンチマークについて

●合成指数

合成指数は、投資先の親投資信託のそれぞれのベンチマークを基本投資比率で合成して算出しています。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の実業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年5月16日現在)

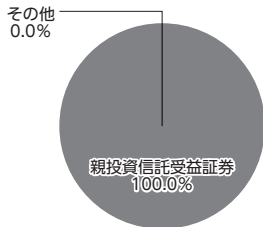
○組入上位ファンド

銘柄名	第132期末
	%
海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	80.0
海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	20.0
組入銘柄数	2銘柄

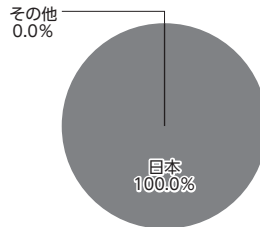
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

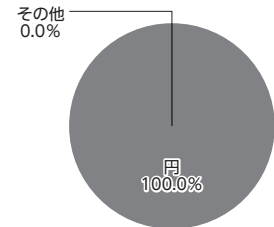
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

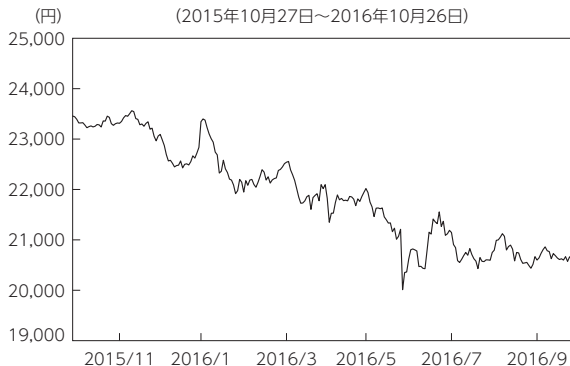
項目	第127期末	第128期末	第129期末	第130期末	第131期末	第132期末
	2016年12月16日	2017年1月16日	2017年2月16日	2017年3月16日	2017年4月17日	2017年5月16日
純資産総額	70,838,429,698円	68,588,095,715円	67,144,704,543円	65,960,479,219円	63,079,962,109円	66,206,775,098円
受益権総口数	80,691,396,307口	79,731,552,221口	78,565,679,659口	77,729,521,636口	77,014,680,124口	76,403,370,853口
1万口当たり基準価額	8,779円	8,602円	8,546円	8,486円	8,191円	8,665円

(注) 当作成期間（第127期～第132期）中における追加設定元本額は477,596,962円、同解約元本額は6,133,820,841円です。

組入上位ファンドの概要

海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年10月27日～2016年10月26日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用	3	0.014
(保 管 費 用)	(3)	(0.014)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	3	0.014

期中の平均基準価額は、22,085円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2016年10月26日現在)

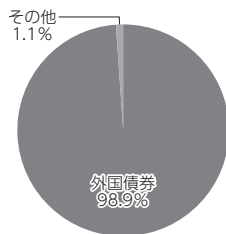
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 US TREASURY N/B 8% 2021/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	1.0
2 US TREASURY N/B 3.625% 2020/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.8
3 US TREASURY N/B 3.375% 2019/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.8
4 US TREASURY N/B 3.75% 2018/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
5 US TREASURY N/B 8.75% 2020/8/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
6 US TREASURY N/B 2% 2023/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
7 US TREASURY N/B 3.5% 2020/5/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
8 US TREASURY N/B 3.625% 2021/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
9 US TREASURY N/B 4% 2018/8/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
10 US TREASURY N/B 1.5% 2018/12/31	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
組入銘柄数		647銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

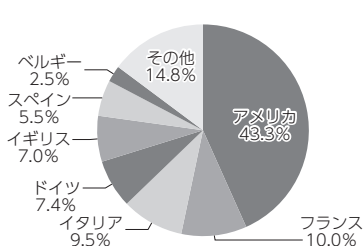
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

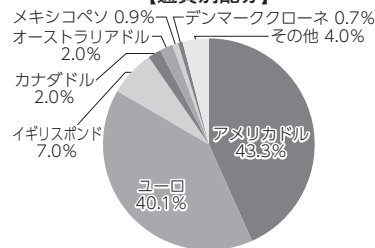
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

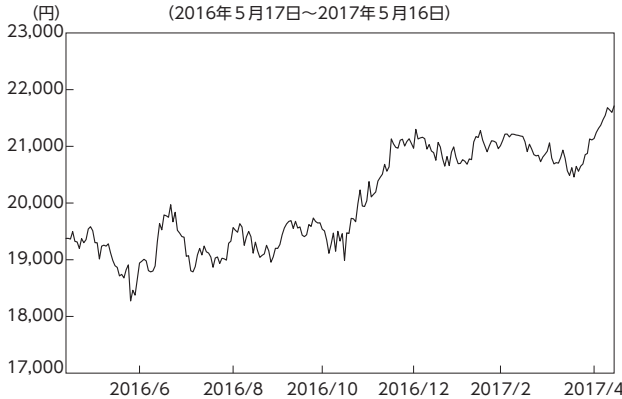
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年5月17日～2017年5月16日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用	9	0.044
(保 管 費 用)	(9)	(0.044)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	9	0.044

期中の平均基準価額は、20,104円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2017年5月16日現在)

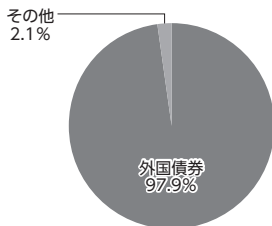
	銘 柄 名	業種/種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	RUSSIA FOREIGN BOND 7.5% 2030/3/31	国債証券	アメリカドル	ロシア	4.4
2	RUSSIA FOREIGN BOND 11% 2018/7/24	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.5
3	REPUBLIC OF TURKEY 7.375% 2025/2/5	国債証券	アメリカドル	トルコ	1.5
4	UNITED MEXICAN STATES 4.75% 2044/3/8	国債証券	アメリカドル	メキシコ	1.4
5	REPUBLIC OF COLOMBIA 5.625% 2044/2/26	国債証券	アメリカドル	コロンビア	1.3
6	RUSSIA FOREIGN BOND 5% 2020/4/29	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.3
7	FED REPUBLIC OF BRAZIL 4.875% 2021/1/22	国債証券	アメリカドル	ブラジル	1.3
8	FED REPUBLIC OF BRAZIL 5.625% 2041/1/7	国債証券	アメリカドル	ブラジル	1.2
9	REPUBLIC OF TURKEY 4.875% 2043/4/16	国債証券	アメリカドル	トルコ	1.2
10	REPUBLIC OF PANAMA 6.7% 2036/1/26	国債証券	アメリカドル	パナマ	1.1
	組入銘柄数			137銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

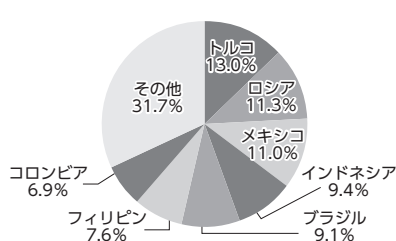
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

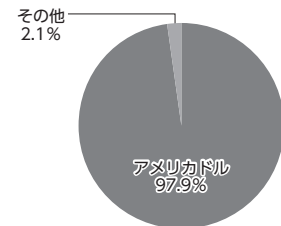
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。